

令和6年度の事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

法人名 特定非営利活動法人もちもちの木

1 事業の成果

令和6年度 活動報告

当法人は令和5年度、新たに広島市の認知症高齢者グループホーム指定事業者に選定の準備をおこない令和8年度に事業開始の予定で進めていった。

また令和6年5月1日より、長年大変ご愛顧をいただいた「デイサービス 土橋のおうち」を「デイサービス 古田のおうち」へ統合しデイサービス土橋のおうちのケアや職員体制を引き継いだうえで、更に快適で安全安心な環境で事業を実施した。

本年度も既存の事業を維持継続させるため感染症対策や災害対策に取り組みながら、理念の共有、ミッション、ビジョン、目指すべき人物像を浸透させて次世代への方向を明確にし、多様な価値観を認める組織作りの評価制度の運用を促進した。

○ミッション：使命

住民参加とボランティア精神のもとに、地域に根差したサービスを提供し、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与する事

○ビジョン：将来像

人の縁という財産を創ろう

世代を超えた多世代のつながりが新しいセーフティネットになる

○もちもちの木の目指す人物像

「優しさと勇気のある人」

失敗を隠さず、嘘なく、個人を責めずチームで受け止め、想いを言語化して、いち早く状況を整理し改善に向き合う人

「地域と共にある法人」

地域コミュニティ支援事業と介護事業をリンクさせ、「フルハウス構想」の実現を具現化していく「居住支援」という事業内で「ふれあいサービスもちもちの木」「住まいと暮らしの保健室」を地域で実践し、既存事業との連携を深化させた。

「働き方改革」

健康的に成長させる、100年時代を踏まえた社会人基礎力の獲得と生産性の向上を継続した。

●人材育成

毎月各会議で協議しながら人材育成に取り組む。常により良い状態になるように振り返りと修正を随時行い、評価制度を活用して自己成長を促進した。

評価項目は★肯定ファースト ★社会人基礎力 ★情報の共有 ★責任の共有 ★介護技術 ★課題解決 ★社会人マナー

自主学習会「もちもちの木ケアメソッド」をリアル開催できなかったが、職員の呼びかけにより法人全体で介護技術研修と交流会が開催された。

●情報共有・責任共有

全事業所で毎日のミーティング（日々の調整）、カンファレンス（実行計画）を実施した。
サイボウズと共有ボード活用の改善により「業務の見える化」の維持継続を図った。介護記録のあり方の学びの機会については実施できず来年度の課題となった。
介護保険法上の同サービスでの記録等を統一するなど事業所間でのスポット勤務を円滑にするための取り組みを行い、各事業所の重要とする項目の擦り合わせを継続した。

全職員がグループ面談で目標設定し、業務と責任領域の具体的な項目を可視化し検証したが人員不足などでグループ面談ができない状況も起きた。

●介護環境整備 I T化とロボット導入については検討に至らなかった。

「利益確保」

利益確保して事業を次世代に引き継ぐために役割分担し、会議・研修等で知識と経験を共に分かち合い営業力を強化し利益の維持を図った。I T化やロボット導入で経費削減に取り組むことは先送りとなった。人件費率62%を基準とし決められた時間内で業務を行い、残業減の為に出勤時間や業務分担を見直したが人員不足による負担が大きかった。

「経営と運営」

現場職員の声を直接反映するために会議のあり方を見直すことには着手できていない。

●営業会議の開催

理事会役員、管理者、リーダー、相談員、計画作成担当者、総務担当者、その他の有識者で毎月の営業会議を開催し、時代に合った経営に関する必要な知識や考え方を知り理解につなげた。前月のデータを各事業所のミーティングで毎月共有し確認できた。またそれに伴うアクションプランの作成と修正を検討した。顧問に全体会議で経営基準などの事業分析をしていただき業界の現状を理解した。新施設の立ち上げと法人の経営アドバイス、法的な対応等をしていただく有識者と顧問から助言を受け実践した。

営業会議で決定したアクションプランを管理し、利用者獲得にむけて各職員の営業協力（広報紙配布、電話対応、来訪者対応、地域住民・親戚への口コミ等）を得て計画的なアプローチをはかることと、地域からの相談・紹介・介護事業所の利用やデイからグループへの入居を数値化（地域からの各事業所の信頼度評価）については着手できなかった。
関係者リストを営業活動に役立てるためのアプリ運用は進まず今後の課題となった。

●運営会議の開催

管理者・リーダー・介護職員、総務担当者、その他の有識者で開催する。
事業所運営に関する必要な知識や考え方を理解し職員の研修の実施状況、アクションプラン、業務改善の進捗状況を報告し共有する。3事業所で協力してシフト調整や人材難の支援を相談しながら行う予定だったが人員不足で会議参加ができず活発な意見交換に至らなかった。

【利用相談・体験・利用および中止件数、デイからグループへの入居者数】

	待機登録（R7年3月現在）	新規入所者
グループホーム土橋	5件	3名（うちD利用者1名）
グループホーム古田	27件	2名（うちD利用者0名）

	利用相談	体験	新規利用	利用中止
デイサービス土橋※	0件	0名	0名	3名
デイサービス古田	34件	12名	8名	8名

※デイ土橋は4月のみ営業

1. 会 議

(1) 第23期通常総会[オンライン]

令和6(2024)年6月8日(土) 18:30~20:30

オンライン参加：理事長・副理事長・監事・理事4名(委任状5名分)

活動報告担当職員7名、その他の職員

(2) 理事会

【第1回】

令和6年5月29日(水曜日) 午後7時~午後8時30分

デイサービス古田のうち：理事5名(1名オンライン参加)・監事1名

会議の目的及び審議事項

- (1) 第1号議案 外国人雇用についての件
- (2) 第2号議案 予算および借入金の件
- (3) 第3号議案 議事録署名人選任の件

【第2回】

令和6年6月8日(土曜日) 午後5時~午後5時30分

デイサービス古田のうち：理事4名(1名オンライン参加)・監事1名・欠席1名

会議の目的及び審議事項

- (1) 第1号議案 理事長選任の件
- (2) 第2号議案 議事録署名人選任の件

【第3回】

令和7年2月5日(水曜日) 午後7時~午後8時30分

デイサービス古田のうち：理事4名(1名オンライン参加)・監事1名・欠席1名

会議の目的及び審議事項

- (1) 第1号議案 認定NPOを取得の件
- (2) 第2号議案 グループホーム食費引き上げの件
- (3) 第3号議案 新規事業の借入金の件について
- (4) 第4号議案 議事録署名人選任の件

(3) 運営会議(毎月第1木曜日)[オンライン]

目的：各事業所の運営面の課題解決

職務：現場の業務課題や人員配置、人間関係の課題を法人全体で共有し話し合う

構成：各事業所より人選した運営委員

(4) 営業会議(毎月第4木曜日)[オンライン]

目的：各事業所の収益拡大

職務：各事業所の営業計画を立て、営業訪問等を実施し報告する

構成：各事業所より人選した営業委員、経営顧問(風社)

(5) 衛生委員会・生産性向上のための委員会(奇数月の第2木曜日)[オンライン]

- ・老朽化した天井照明のLED化、高温多湿となる浴室脱衣所にエアコン設置、滑りやすいトイレの床にシートを貼るなど職場環境改善を行った。
- ・感染症の罹患情報を迅速に共有し、事業所間の勤務フォローを行った。

(6) 法人全体会議[オンライン]

【第1回】令和6年9月30日(月) 18:30~19:30

- ・就業規則・規程変更について
- ・給与明細データ化について
- ・新事業所(新古田のうち)の進捗状況について
- ・外国人技能実習生の雇い入れについて

- ・認定NPOの取り組みについて
- ・コンプライアンス研修（「コンプライアンスチェックリスト」配付、回収）

【第2回】令和7年3月31日（月）18：30～19：30 オンライン

- ・令和6年度の各事業所活動報告（概要）
- ・コンプライアンス研修（社労士法人JOY）
- ・新古田のおうち 進捗状況について
- ・「労務に関する誓約書」について

2. 介護事業

（1）土橋のおうち

◎グループホーム土橋のおうち（定員9名）

入居状況（令和7年3月31日現在）

入居者 9名（女性6名、男性3名 平均年齢86歳） 平均介護度 2.8

介護度	人数
要支援2	0
要介護1	0
要介護2	3
要介護3	5
要介護4	0
要介護5	1

カンファレンス 毎月定期開催 第4金曜日（計12回）

ミーティング 毎月定期開催 第3金曜日（計12回）

運営推進会議 隔月開催（計6回）

研修 キャリアパス研修受講 ※「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」（4）参照

消防訓練 9/25、3/17

行事

4月	花見
9月	敬老会
11月	西本川浜恵美須神社 秋季例大祭 亥の子
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	節分豆まき
3月	花見・桃の節句

※このほか入居者全員の誕生日会を行った。

◎デイサービス土橋のおうち（定員13名）

新型コロナの影響による利用者数の減少や人材確保困難等の課題のため、運営体制を再検討せざるを得ない状況となり、令和6年5月1日付でデイサービス古田のおうちに統合することを決定した。

これに伴い、平成13年に開設したデイサービス土橋のおうちは令和6年4月30日をもって休止、令和7年3月31日付で廃止とした。

（２）古田のおうち

◎グループホーム古田のおうち（定員９名）

【令和６年度 活動報告】

課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	実施状況
ケアの向上	入居者が活動と休息をバランス良く過ごせる環境を整える	見る、話す、触れる、立つのユマニチュードの心構えで、特に朝一番の声がけ(挨拶)を大事にする。昼食前・おやつ等の前にレクリエーションを日課にする。	入居者の体調に合わせてレクリエーションの実施をした。
環境整備	エアコンの定期清掃、夏の浴室環境(28度)和室(休息室)を検討し整理整頓された環境を目指す。	和室を心地よい休息室にするために、環境整備は衛生委員と協力して検討する。自身の持ち物及び、施設やご入居者様の使用した物は元に戻す。	浴室環境は扇風機の活用し温度調整をした。休憩室の整理整頓し環境整備できた。
誤薬・医療連携	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努める。	担当となっている入居者のできることを模索する。薬については各担当が目的と用法を書き出し理解を深めて他の職員に情報共有していく。	誤薬に関して研修を実施し再発防止のための理解を深めた。再発防止策として服薬カップを活用した。
個人の尊厳	一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように家族や地域の人々と協力して外出支援に努める。	天気の良い日は必ず散歩・買い物・中庭等でリフレッシュを実施する。	コロナやインフルエンザ感染対応や猛暑もあり外出ができなかったが中庭でのリフレッシュは実施した。
地域連携	古田のおうちからの情報発信や、合同での会議・オープンカフェや家族会等のイベントを開催し地域との連携・交流を図る。	職員より提案のあった太鼓のイベントを町内会・ご家族とも一緒に楽しめる企画にして実施する。	太鼓・音楽会のイベントを実施し地域と家族の参加もあった。
防災	BCPの内容を全職員が把握し、理解する。昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につける。	大きな課題なので職員が各自で考える機会が必要。毎朝のミーティングの時に物品の場所などリストに沿って1つ1つ伝えて確認をしていく。	毎朝のミーティングでの実施はできなかったが研修で物品の確認を行った。
防災	災害時の地域との協力体制を築き、防災訓練等を共同で行う	年４回の研修とミーティングで実施する	予定通り研修を実施できた。

入居状況（令和７年３月３１日現在）

介護度	人 数
要支援2	0
要介護1	1
要介護2	1

要介護3	2
要介護4	2
要介護5	2

定例ミーティング：毎月第2水曜日（12回開催）

カンファレンス：毎月第4金曜日（12回開催）

運営推進会議：6回開催

研修：毎月のキャリアパス研修を実施した。

◎デイサービス古田のおうち（定員13名）

【令和6年度 活動報告】

定員を18名に増員し令和6年5月1日より「デイサービス土橋のおうち」を「デイサービス古田のおうち」へ統合した。デイサービス土橋のおうちのケアや職員体制を引き継ぎ、双方の良いところを出し合い更に快適で安全安心な環境でご利用していただくよう協力して臨んだ。統合により新規獲得の余裕がなく、年度末に入院が相次いで利用者減となった。

1. 介護実践能力の向上

- ①キャリアパス研修以外にも専門的な認知症ケア技術・知識を学び、チームで共有した。
ユマニチュードの更なる徹底・ケアの5つのステップの実践
スキルアップのために定期的な研修の実施はできなかったが、研修を計画し法人内に呼びかけ介護技術の研修を実施した。
- ②ケアカンファレンス（第2月曜日）で個々のケアの方向性を話し合った。
- ③緊急時および事故発生時はサイボウズ、Nシステムケア、LINEWORKS グループを活用して速やかに全員に共有し対処できた。

2. 利用者サービスの向上

- ①独居の方を含めすべての利用者が安心して在宅生活が継続できるよう、他事業所と連携して権利擁護を行った。
- ②介護家族が安心して社会生活ができるよう、認知症ケアや医療的ケアに関する情報提供を行った。
- ③機能訓練に職員全員で取り組めるように効果的な居宅訪問の実施し担当利用者の在宅での課題を把握でき、機能訓練指導員と協力して計画を立てることが定着した。

3. 業務内容の改善を図る

- ①ホワイトボードの可視化した事で業務の効率化を継続した。
- ②情報共有しチームワーク・連携を強化し維持しホワイトボードの活用を定期的に見直し定着した。サイボウズを活用して記録の簡素化と情報共有を図れたが、Nシステムの介護記録が業務の中で定着できなかった。
- ③LIFEの基本情報入力を担当で把握し必要な業務として業務時間内でルーチン化を課題としたが時間をかけることができなかった。
- ④業務の振り返りや報告の実施
引き続き定期的なミーティング（オンライン）により、事業所の課題を共有することで、全員が解決に向けて検討協力した。

4. 働きやすく活気ある職場づくり

- ①ミーティング（第2月曜日）で事業所運営や職場の課題を話し合った。
- ②5S活動のほか継続的な環境改善をおこなった。
- ③リフレッシュ休暇制度の試験導入を試みたが実施できなかった。

5. 事業所運営に参画する

登録者数 28名 利用実績 10名 機能訓練 実数 24名

- ①定期的に利用者を紹介してくれるようケアマネとの信頼関係を築いていくために、月末の報告の記入内容を検討する。毎月の報告書と一緒にチラシと空き情報を送付した。
- ②職員全員が経営への関心を高めることを毎回のミーティング項目としたが定着できなかった。
- ③相談対応、体験利用時・利用後の対応を整理してスムーズに利用にむすびつけるように対応した。

- ④インターネット、SNSを活用した情報発信を行ったが定期的にはできていなかった。
 ⑤BCP（事業継続計画）運用に向けて、日々のミーティングでは確認を行えなかったが、研修・訓練は実施できた。

運営推進会議（２回） キャリアパス研修受講 カンファレンス&ミーティング（１２回）

３．地域コミュニティ支援事業

（１）土橋のうちに

◎もちもちカフェ（認知症カフェ）

毎月第２金曜日 １０：３０～１２：００

参加者 延べ４７人（１回あたり平均４人）

認知症の人とその家族 延べ１４人 ／ 専門職 延べ ２３人 ／ 地域 延べ １０人

土橋のうちに地域交流広場 活動団体一覧(令和6年3月31日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
もちもちカフェ（認知症カフェ）	第2金曜日	10:30~12:00	12回	47人
				参加延べ人数 計47人

（２）古田のうちに

◎地域食堂（デイサービス古田のうちに）

再開を検討できなかったが、次年度は具体的に再開計画を立てていく。

自主活動グループ

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
しあわせ体操	毎週土曜日	9:30~11:30	42回	170人
カフェ 万葉の和	第3土曜日	13:30~15:00	11回	84人
				参加延べ人数 計212人

（３）庚午のうちに

◎もちもちの木 オープンスペース「もちもちの子こうご～さんさんさんでい」

令和6年4月～令和7年3月 オープンスペース１２回開催

利用のべ数 親子４４組 子ども５８名 大人（スタッフ含む）１２２名

日時：毎月第３日曜日 １０時～１３時

◎庚午カフェ

第１火曜日：お弁当配付 第３火曜日：サロン開催

中国新聞に「庚午の絆 紡ぐ真心弁当」と掲載され、年末は「お一人様おせち料理」を提供した。地域の方の要望を聞かせてもらいながら１２年経過、住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

◎健康マージャン

第１・３・５水曜日「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに発足して１２年目に入る。

住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

◎たぬき倶楽部

第3水曜日 19時～ ソフトボールは庚午中学校のグラウンド再開、寒候期はボーリングと卓球・交流会を実施した。6回開催

◎ほろ酔いシェアハウス

不定期 13時～ 日本酒の愛飲者の交流会 7回開催

◎年金酒場

偶数月第1水曜日 年金受給者の交流会。16時～18時 8回開催 のべ93名参加

庚午ののうち 地域交流広場利用集計

団体名・活動名	活動回数	参加延べ人数
庚午カフェ	10回	弁当 803個
第1火曜 弁当	1回	おせち 120個
おせち料理	12回	321人
第3火曜 サロン		
健康マージャン	27回	483人
たぬき倶楽部	6回	57人
オレンジャーひろば	14回	388人
ふれあいサービスもちもちの木	11回	227人
もちもちの子こうご～さんさんさんでい※法人事業	12回	122人
ほろ酔いシェアハウス	7回	95人
住まいと暮らしの保健室	125回	817人
年金酒場	8回	93人
合計（延べ数）※弁当・おせち料理数をのぞく		2,603人

※ふれあいサービス・住まいと暮らしの保健室・多世代シェアハウスについては「5. 居住支援」に掲載。

4. 総 務

令和6年度活動計画の振り返り

【法人経営・事業所運営】

- ・「運営会議」「営業会議」の運営、情報共有を役割分担することで各事業所への周知と定着をはかる。
 - ➡勤務のため会議に参加できない委員が多かった。各事業所で丁寧な情報共有ができにくいことが課題である。
- ・「開発会議」を中心に職員のスキルアップ支援（グループ面談）を行う。
 - ➡デイサービスではグループ面談を実施したが、グループホームでは実施が難しかった。
- ・事業継続計画（BCP）の内容を定着させる仕組みを作る。
 - ➡研修・訓練を経てBCPへの理解は浸透したものの、運用に向けて今後改善が必要である。
- ・文書およびデータ保存方法を法人全体で見直し、適正な文書管理と廃棄を行う。
 - ➡総務関連の文書・データ管理と廃棄は移転準備作業とあわせて予定通り進めている。
 - ➡各事業所の文書・データ管理が課題となっている。

【安全衛生】

- ・今年度より「衛生委員会」および「生産性向上のための委員会」を同時開催する。
- ・働きやすい職場環境づくり、利用者の安全やケアの質の確保など継続的な業務改善を行う。
 - ➡「衛生委員会および生産性向上のための委員会」の検討結果をもとに老朽化した設備の修理更

新や環境改善を行った。

・腰痛対策に取り組む。

➡令和6年度厚労省エイジフレンドリー間接補助金事業として専門家を招き「働く、を楽しむための腰痛アップデート講座」を実施した。最新の骨盤の機能解剖学にもとづくフランスのガスケアプローチによる姿勢と呼吸の改善を目的として、職員の身体機能評価・座学研修・実技研修・個別研修に計29名が参加した。

【人事労務】

・シフト作成、勤怠管理システムを導入する。

➡シフト作成システム CWS for Care を導入した。勤怠管理システムは導入を見合わせた。

・法人離職率15%未満

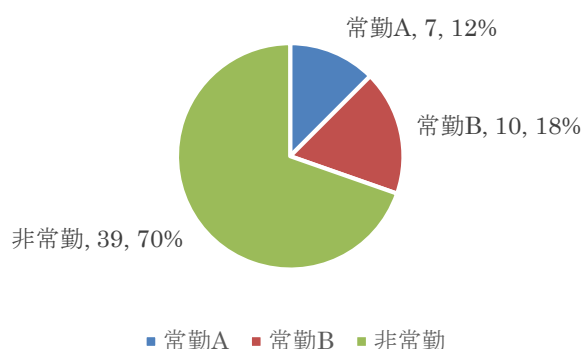
➡令和6年度 法人離職率 21.8%

➡常勤職員の退職が目立ち、定着率の向上が課題となった。

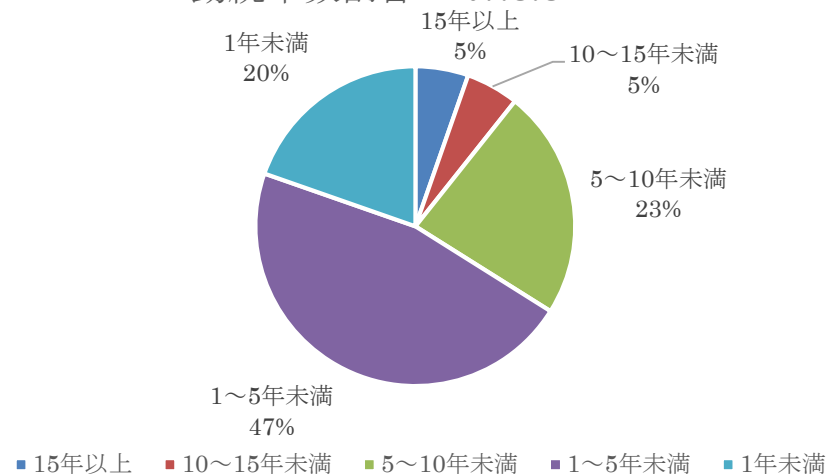
令和6年度 採用実績

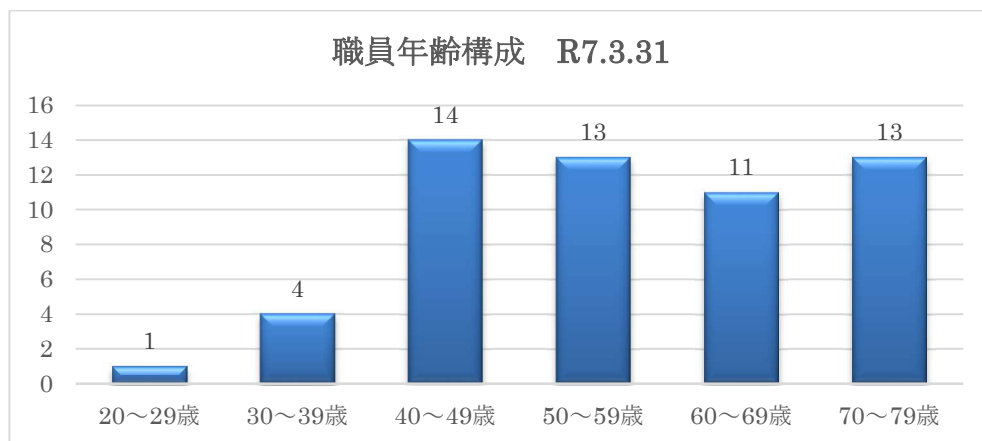
	ハローワーク	市シニア応援センター	人材紹介業者	知人、その他	計
面接件数	5	3	15	10	33
採用人数	1	3	5	4	13

雇用形態割合 R7.3.31



勤続年数割合 R7.3.31





5. 居住支援

居住支援法人事業は5年目を迎え、相談件数が以下の通り増大している。

重層的な相談が増加し「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援など」課題解決に向けて、地域包括支援センター、市地域支え合い課、弁護士・司法書士、不動産会社等の関係機関との連携も頻回になり関係を強化し深めた。

令和6年度	入居前の相談支援	173件
	障がい者の入居前相談	40件
	孤独・孤立防止対応	10件
	入居中・退去時支援	83件
	入居実績	6件（前年度 4件）
	緊急連絡先引受件数	5件

令和6年度居住支援法人活動支援事業補助金交付（国土交通省）2,250,000円（予定）

令和7年3月28日 確定補助金額 3,151,062円（実績）

（会議出席）

令和6年6月10日 広島県居住支援協議会定期総会

令和6年8月24日 広島市居住支援協議会 第3回意見交換会

令和6年7月12日 広島県居住支援協議会 居住支援法人等部会

（研修会における講師派遣等）

令和7年1月18日 NPO心の絆ネットワーク「居住支援の話」

令和7年2月27日 佐伯区研修会「広島市居住支援協議会と居住支援法人の活動を知ろう」

◎ふれあいサービスもちもちの木（生活支援）

庚午カフェ開催時、地域の困りごとを聞く中で生活支援の必要性を感じ「ふれあいサービスもちもちの木」の活動エリアを庚午・草津・古田近郊に限定して再構築した。

広島市住民主体型生活支援訪問サービス実施団体に認定され、月に1回の勉強会を開いている。

活動することで、地域包括センターと西区社協との関わりあいも増え一歩ずつ進めている。

◎住まいと暮らしの保健室（広島県共同募金 社会課題解決プロジェクト参加）

高齢者・障がい者・一人暮らしの方などを主な対象とする、トータルサポートの場「住まいと暮らしの保健室」における企画・運営（アウトリーチ・カフェスタイル）、人材の育成を主な目的とする。これまで、当法人では地域の困りごとを解決する「ふれあいサービスもちもちの木」を平成16年より活動開始し、さらに手厚いケアをめざし、保健師、看護師、介護福祉士等経験豊かな人材を配置した「エッセンシャルケアアテンド」事業へと発展させてきた。この実績を活かし、「住まいと暮らしの保健室」には

エッセンシャルケアアテンドの常駐と、地域住民からの健康、福祉、生活、住居等に関する様々な相談にワンストップで対応することを主な特徴としている。

もちもちの木「住まいと暮らしの保健室 ～よってみて保健室～」毎週火曜日

保健室の6つの機能（①相談窓口 ②居心地の良い場 ③地域住民の学びの場 ④交流の場 ⑤連携の場 ⑥育成の場）を充実しながら開催した。

形式：カフェスタイル 構成員：保健師・看護師・介護福祉士・居住支援相談員等

「住まいと暮らしの保健室」開催状況（年間）

〈令和5年度「住まいと暮らしの保健室」参加状況（人数）の内訳〉

R6年4月～ R7年3月	乳幼児	小学生	中学生	高校生	成人	高齢者	合計
総人数	44	3	0	0	215	324	586

①相談窓口の場（相談延べ件数：247人）

毎週火曜日10時～15時 ・第3日曜日子育て相談10時～13時

個別相談及び健康チェック&保健指導（血圧測定、spo2測定等）

- ・相談者：支援者（ケアマネ、司法書士、行政・包括職員、病院相談員、ボランティア他）
：当事者（高齢者・家族、乳幼児の保護者、発達障害児の保護者、不登校児童の保護者他）
- ・地域団体や行政職員やボランティア等の見学と説明（行政、包括、地区社協、NPO法人関係者等）
- ・居住支援相談（来所相談、電話相談等）

②居心地の良い場

- ・地域のボランティアによる弁当作りと庚午カフェ ・子育てを愉しむサロン
- ・ハンドフェイスマッサージ ・「コミュニティガーデン」

③地域住民の学びの場

- ・手話サロン（毎月） ・脳年齢&ベジタブル測定会 ・フラワーアレンジメント
- ・美味しい珈琲の入れ方 ・足の爪の手入れの仕方・食育サロン&食事会（2が月毎）
- ・ドキュメンタリー映画「チョコレートな人々」上映

●ドキュメンタリー映画「チョコレートな人々」参加状況について

上映日時：令和7年3月1日（土） ①13:30～ 120人

3月2日（日） ②10:30～ ③13:30～ 111人 計231人

「赤い羽根共同テーマ募金」を活用して実施

当日上映の準備や受付・案内・片付けなどご協力いただいた方々・・・30人あまり

映画に関するアンケート結果

- ◆回答者数・・・199人（60歳代以上の回答者が半数以上）
- ◆住まい・・・広島市内77%（その中で西区40%）
- ◆映画を知ったきっかけ・・・法人スタッフ：41%、中国新聞：19% 友人家族：14%、
後援機関から：11% 他
- ◆映画の満足度・・・とても満足、満足：97% 不満足、よくわからない：3%

④地域交流の場（出前保健室、住民との交流会等）

- ・「ワンダふるたパーク」「まちの保健室」に出前
- ・もちもちの子こごの集い オープンスペース参加
- ・認知症カフェ2か所にて出前保健室講座

⑤連携の場 他区の認知症カフェボランティアとの交流

- ・地域支えあい課等との情報交換
- ・地域包括支援センター、障害基幹型支援センターとの連携

⑥育成の場（地域住民の勉強会や講座等）

- ・ふれあいサービスもちもちの木（生活支援サービス）勉強会 6 回
- ・ケアアテンドの研修・実習⇒ACP 研修 R 単元研修 1 回／月
- ・6/16 認知症ケア学会にてパネリスト参加
- ・7/27「暮らしの保健室」中国地方会情報交換会 in 福山に参加

6 つの機能に関する「保健室&庚午カフェ」のニーズ調査は実施できなかった。

令和 7 年 1 月～3 月 保健室の広報と募金活動実施

◎多世代シェアハウス 庚午のおうち

入居者 計 4 名（80 歳代 1 名、60 歳代 1 名、50 代 1 名、40 歳代 2 名、20 歳代 1 名）満室（令和 7 年 3 月現在）

令和 3 年度より居住支援指定法人の指定を受け専任の担当者を配置し、居住支援対象者の入居後のサポートを実施した。昨年末は 2 室空いていたが 5 月入居あり、地域より改装時に一時的に入居希望あり対応した。12 月に退去 1 名あったが、1 月には満室となった。

「快適シェア会議」は日程調整ができず未開催となったが個々の交流は日々に行われ良好な関係で生活をしている。ゆったりとしたシェアハウスで個々の暮らしを守りながら適度な協力をして支え合っている。

◎居住支援フルハウス構想

2040 年の幸せな暮らし、超高齢&ソロ社会の「住まいと暮らし」あり方として「居住支援フルハウス構想」のワーキンググループを立ち上げ交流を図り、令和 5 年度広島市認知症グループホーム公募申請における基本コンセプトなどの助言をいただき基本構想の検討に協力をいただいた。その他の総合的な構想に対して具体的な実現を目指す定例会の開催には至らなかったが、進捗状況を報告し情報共有した。

6. 講師派遣、研修・地域活動への参加

（1）スタッフの参加

◎土橋・本川地域の活動への参加

実施日	内 容
8/5	原爆死没者慰霊祭
11/8	西本川浜恵美須神社 秋季例大祭
11/9	亥の子祭り

◎庚午・古江地域の活動への参加

実施日	内 容
毎月第 2 土曜日	古江新町町内会 役員会
10/20	古江新町秋季大祭
1/25	古江新町町内会 新年のつどい
3/22	古江新町 BBQ 交流会

（2）講師派遣

◎認知症サポーター養成講座

講師

実施日	内 容
11/1	認知症サポーターステップアップ講座 向洋新町 大洲地域包括支援センター

◎その他の講座・シンポジウム等

講師

実施日	内 容
6/14	「認知症の人の意思決定支援を考える； 対話やケアの中で浮かび上がる当事者の願い」シンポジスト 第25回認知症ケア学会 シンポジウム3
11/1	認知症サポーターステップアップ講座 向洋新町 大洲地域包括支援センター
11/16	「認知症の人が地域で暮らし続けるために必要なネットワークについて考える」 岡山県民医連認知症研究会
3/28	令和6年度第1回広島市社会教育委員会議

講師

実施日	内 容
5/21	「祇園公民館「人生会議・ACP」出前講座
7/27	「暮らしの保健室」情報交換会 in 福山
9/10	地域包括支援センター実務者研修
10/20	安佐南区ケアマネ研修
1/30	観音包括「人生会議」研修

研修・視察等（全体）

実施日	内 容
9/25	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 大学院生
11/8	広島県中小企業家同友会 研修
1/18	NPO心の絆ネットワーク「居住支援の話」
1/28	広島市介護保険課 視察 7名

（3）研修の受講

◎令和6年度キャリアパス研修等（内部研修・全職員必修）

実施月	内 容
4月	倫理及び法令順守／法人テキスト ★介護技術ペア評価・OJT
5月	★介護技術ペア評価・OJT
6月	感染症・食中毒予防
7月	身体拘束・虐待防止、事故発生・再発防止
8月	BCP 研修①
9月	BCP 訓練①感染症 消防訓練（夜間想定） コンプライアンス研修
10月	認知症及び認知症ケア①
11月	プライバシーの保護
12月	身体拘束・虐待防止、事故発生・再発防止 ★「働く、を楽しむための腰痛アップデート講座」（令和6年度エイジフレンドリー間接補助金事業 スポーツ・運動指導コース）
1月	BCP 研修②
2月	認知症及び認知症ケア②
3月	BCP 訓練②自然災害（消防訓練・避難訓練） コンプライアンス研修

◎外部研修受講（全体）

実施日	内 容
7/27	「暮らしの保健室」情報交換会 in 福山
10/16	社会的処方研修 in 南区地域福祉センター
10/28	令和6年度 西区認知症アドバイザーフォローアップ研修・交流会
10/31	令和6年度 西区6包括合同 医療と介護の連携会議
12/7	ニッセイ財団高齢社会シンポジウム（Web 研修）

7. 想いと活動の紹介

◎情報発信

- ・法人ニューズレター「もちもちの木 smile」
令和6年春号・令和7年冬号 各2,000部発行
- ・法人公式サイト、Facebook、Instagramで情報発信を行った。

8. 寄付・募金活動（ファンドレイジング）

令和6年度 共同募金への参加（令和7年度事業分）

事業継続にむけて、共同募金会のプロジェクトに参加し114件の団体・個人よりご寄付を頂くことができた。

1. 社会課題の解決のための事業の名称
もちもちの木「住まいと暮らしの保健室の開設」における開設準備室の設置とワーカーの募集・研修
2. 事業の総予算額 2,600,000 円 共同募金配分申請 1,256,165円

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業名)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者 の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千 円)
介護保険法 による認知 症対応型共 同生活介護 の居宅サー ビス事業	認知症高齢者の為の グループホームの運営 ①グループホーム土橋のおうち ②グループホーム古田のおうち	(A) 年中無休 (B) ①土橋 ②古江新町 (C) ①土橋＝17 名 ②古田＝23 名	(D) 認知症 要介護高齢者 (E) 定員各 9 名、計 18 名	87, 156
介護保険法に よる通所介護 の居宅サービ ス事業	要介護認定高齢者の為の デイサービスの運営 ①デイサービス土橋のおうち ②デイサービス古田のおうち	(A) 日～金 年始 3 日間休日 (B) ①土橋 ②古江新町 (C) 土橋＝7 名 古田＝21 名	(D) 要介護 高齢者 (E) 定員 土橋 13 名 古田 13 名 計 26 名	45, 353
高齢者、障害 者の趣味活動 、社会参加の 援助 高齢者専用賃 貸住宅以外の 高齢者住宅の 運営管理	①ふれあいサービス もちもちの木 ②地域交流広場古田の おうち ③地域交流広場庚午の おうち ④地域交流広場土橋の おうち ⑤庚午のおうちシェア ハウス ⑥居住支援 ⑦新古田のおうち（仮称）	(A) ①②③④必要時 ⑤⑦年中無休 ⑥日月祝休日 (B) ①③庚午中 ②⑦古江新町 ④⑥土橋 (C) ①庚午 28 名 ②古田＝1 名 ③ 庚午＝2 名 ④ 土橋＝1 名 ⑤ 庚午＝1 名 ⑥ 土橋＝1 名 庚午＝1 名 古田＝1 名 ⑦ 古田＝1 名	(D) 地域住民 (E) 定員 ① 延べ 201 名 ② 延べ 212 名 ③ 延べ 2834 名 ④ 延べ 47 名 ⑤ 定員 6 名 ⑥ 延べ 265 名	17, 598

計 150, 116 千円

(2) その他の事業

実施なし

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。